

## 「会員短信 51」

### 「句友」

### 月城花風

私は昔から文章を書くのが好きだ。いかに盛って文章を仕上げようか、と考えることが楽しい。しかし結婚をしてからは、仕事や子育て、家事に追われて全力疾走するような毎日に、日記でさえ綴ることも出来ず、気がついたら半世紀が過ぎてしまった。

そんな時に出会ったのが俳句である。十七音で表現するには、言葉を削ぐのでは無く、言葉を盛っていくものだということに気付いた私は、この短い文学へどんどんハマってしまった。

最初に入会した結社は投句のみであった。入会した当初は義母の介護などもあり、そのペースが丁度よかったものの、その内にもっと仲間と論じたいと思うようになってきた。義母を見送ると、その思いが別の結社とのご縁を引き寄せ、かくして二つの結社に所属することになった。そして、一方の結社でついに念願の句会デビューを果たした。皆で感想を述べ合い、選句し、他人の句から学ぶ場が句会だ。吟行にも参加しているが、同じ景色を見ているのに違った視点の句に触れることは新鮮である。何よりも、年齢の違う仲間と俳句歴に全く関係なく、忌憚のないお喋りのできる時間がとても楽しい。

この春、近所の方より「俳句を教えて欲しい」と乞われて、地元で句会を持つようになった。「教える」のではなく、私も一緒に楽しむ句会だ。初心者ばかりの集いだが、みんな和気藹々とお互いの句の話に耳を傾けている。上手に作句することより、作句に親しむことを改めて句会の中で学んでいる。